



幕末に、函館港が日本初の国際貿易港の一つとして開港したことにより、函館市の中心市街地である「港が丘通」周辺には、諸外国の影響を受けた建築物が建てられ、現在も明治・大正期の建築物が多く残されている。また、周辺の坂道の舗装も古くから石畳舗装で、これらが函館特有の歴史的文化的景観をつくりだしている。

この「港が丘通」の整備にあたっては、市民の生活道路であるとともに観光客の多くが散策を楽しむ道でもあることから、周辺との景観に配慮し、路面には自然石を、照明灯にはガス灯風ものを配置し、歴史的景観にとけ込むように配慮した。

また、石畳の石は、歩きやすさを考慮して、主に平板状の花崗岩を使用し、ノミ切り仕上げで仕上げている。

DATA BOARD

- ①北海道函館市元町
- ②延長：690m、幅員：5.5～10m
- ④花崗岩、安山岩ほか



都市計画道路 8・6・2 港が丘通

みなと

おかとわり

ふるさとの風景にとけこむ道